スマートグリッドの補足資料　出典：経済産業ジャーナル平成22年9・10月号
http://www.meti.go.jp/publication/data/2010_09.html

これが2030年のあなたの家だ！

もう、変化は始まってる！

みなさんは、20年後の我が家がどうなっているか、想像したことがありますか？
「エネルギー基本計画」では、まさにエネルギーの視点から、その具体的イメージを示しています。
意外？ 納得？ 計画が2030年までの目標としている装置や機器の普及率などをご覧ください。

100%
すべての「明かり」が生まれ変わる

高い省エネ性能を持つLED照明、有機E.照明といった高効率次世代照明について、2020年までにフローで100%、2030年までにストックで100%の普及を目指す。

家のエネルギー消費を実質「ゼロ」に

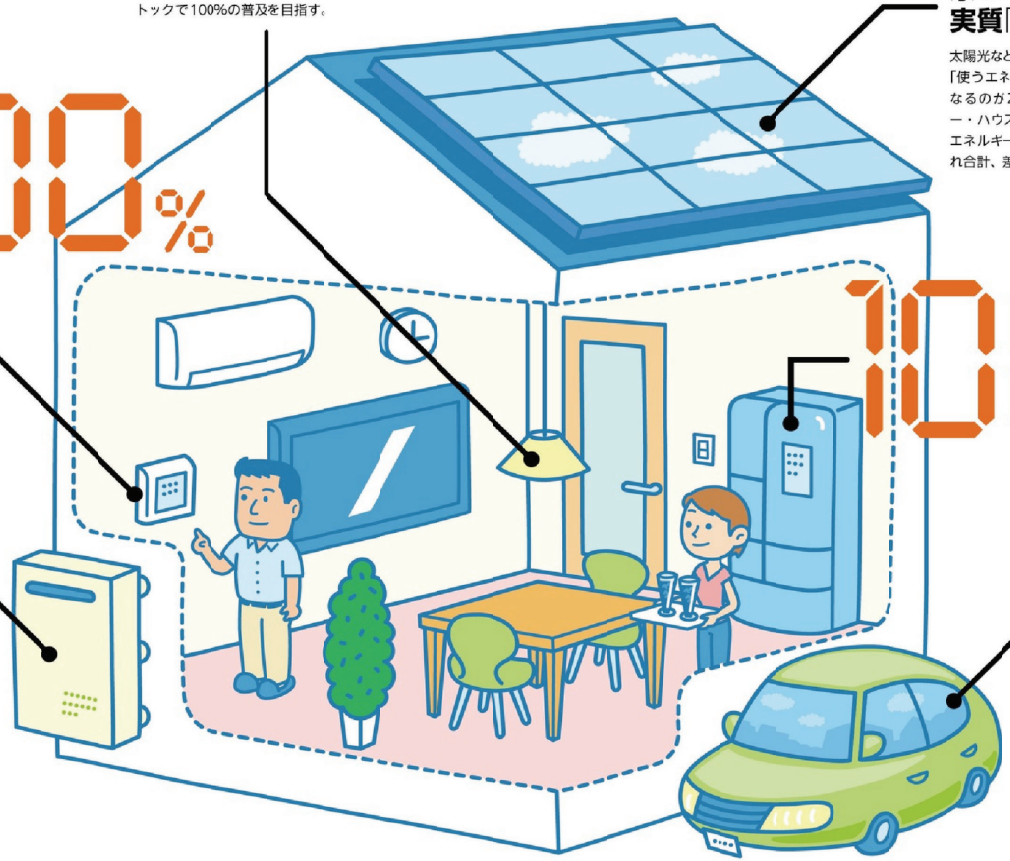
太陽光などで「つくるエネルギー」と生活で「使うエネルギー」を差し引きすると±0になるのがＺＥＨ（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）。すべての新築住宅で「つくるエネルギー」と「使うエネルギー」をそれぞれ合計、差し引きして±0にするのが目標。

±0

賢いエネルギー利用を全世帯でサポート

無駄のない賢いエネルギー利用に大きな役割を果たし、消費エネルギーの「見える化」にも役立つスマートメーターを全世帯に設置。

100%



100%
さまざまな家電が省エネ型に

「最も省エネ性能が優れている機器」を基準にするトップランナー方式などのいっそうの推進で、冷蔵庫、テレビ、エアコンなど、すべてが省エネ家電に。

80～90%
少ないエネルギーでたっぷりのお湯を沸かす

現在、市場が拡大しているヒートポンプ給湯器や家庭用燃料電池。お湯を沸かすエネルギーを大幅に削減する、こうした高効率給湯器の普及率を全世帯の8～9割に。

70%
新車販売10台のうち7台が次世代自動車に

新車販売における次世代自動車（ハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車など）の割合について、2020年までに最大50%、2030年までに最大70%が目標。

Column

2030年、家もクルマもエネルギーシステムの一部に

飛躍的に高まる住まいやクルマのエネルギー利用効率。ただ、話はそこで終わりません。前のページでも紹介したとおり、「スマートコミュニティ」において、住まいやクルマはエネルギーをつくったり、受け渡したりする拠点にもなります。一軒一軒、一台一台が独立して存在するのではなく、つながり合い、ネットワークをつくることで、これまで活用し切れなかったエネルギーを無駄なく使うことができるようになるのです。